

青少年ふくしま

福島県青少年育成
県民会議第32号
平成24年12月7日(金)

『第35回福島県青少年健全育成 推進大会』実施される！

11月21日(水)、福島県文化センター小ホールにおいて今年度の「福島県青少年健全育成推進大会」が村田副知事出席のもと、盛大に実施されました。

今年度は、東日本大震災及び原子力発電所の事故から復興再生を目指して様々な取り組みと努力がなされている中での大会となりましたが、多方面からの支援や活発な活動により、青少年の健全育成も充実したものとなりました。

大会前には「少年の主張全国大会」で審査委員会委員長賞を受賞した山野邊のどかさん(いわき市立中央台北中学校3年)が村田副知事に直接受賞の報告をしました。副知事からは本県の若者の全国での活躍の喜びと、これからの本県復興再生の担い手になることを期待しているとの言葉がありました。

大会では、次の団体と個人が表彰されました。

1 福島県青少年健全育成条例に基づく知事表彰

○青少年団体の部：郡山東部婦人会(郡山市)、いわき市青少年育成市民会議常磐地区推進協議会藤原支部(いわき市)
○青少年育成の部：大内幹夫(郡山市)、松本規子(会津若松市)、夏井隆一(喜多方市)、松田文子(いわき市)、渡邊俊克(いわき市)大和田廣子(いわき市)

2 福島県青少年育成県民会議会長表彰

○青少年の部：小野加奈恵(郡山市)
○青少年指導者の部：安達貞一(福島市)、山地稔(福島市)、八島義昭(国見町)、菅野忠教(郡山市)影山光威(白河市)、白井康之(会津若松市)、高橋正夫(喜多方市)、高原カネ子(楡葉町)、武田一奉(相馬市)、栗原三和子(南相馬市)、志賀利彦(いわき市)

○青少年団体・青少年育成団体の部：内谷春日神社太々神楽保存会(国見町)、郡山市熱海婦人会(郡山市)、小野町剣道スポーツ少年団(小野町)、天栄俳句会(天栄村)、私設柿の木文庫(白河市)ボーイスカウト福島連盟会津美里第1団(会津美里町)



↑ 村田副知事出席のもと実施された推進大会

会津美里地区少年警察ボランティア協会

(会津美里町) 高平少年剣道クラブ(南相馬市)、勿来高校関の子ボランティア(いわき市)

○青少年育成市町村民会議の部：田村市青少年健全育成市民会議、只見町青少年健全育成町民会議

○青少年健全育成功労者の部：濱津政勝(郡山市)、金子喜弘(いわき市)、佐藤武継(いわき市)、木田秀雄(いわき市)

3 「家庭の日」作文、絵画、ポスター作品最優秀者知事表彰

○作文の部：西川継子(玉川一小2年)、鈴木杏奈(平一小3年)、菅野大士(白河三小6年)、井尻俊介(館岩中3年)鶴川静香(盲学校高等部1年)

○絵画の部：武澤実夢(国見小1年)、本多颯大(泉北小4年)、渡辺美月(中央台南小6年)

○ポスターの部：小湊菜月(石川中3年)

4 「少年の主張全国大会」審査委員会委員長賞伝達

… 山野邊のどか(中央台北中3年)

表彰式終了後、「家庭の日」作文最優秀賞作品を代表し西川継子さんが「ばあちゃんのにゅういん」を朗読し、また、「第34回少年の主張全国大会」で審査委員会委員長賞を受けた山野邊のどかさんの「助け合いのバトン」の発表があり、大会参加者に大きな感動を与えていました。次に、**福島大学学長の入野 修氏**による「子どもが夢を描ける環境を！（遊び）は（学び）」と題する講演において、教育とは人を育むことであり、科学技術、経済、価値観等の既存概念を見直し、それぞれの相互関連を図りながら、子どもたちの夢を育てる環境を作ることが重要であるとのお話しをいただきました。

最後に、田村市青少年育成市民会議代表者が「大会宣言（案）」を朗読・了承し、「第35回福島県青少年健全育成推進大会」は盛会のうちに終了しました。



↑ 各団体等の表彰



↑ 「家庭の日」コンクールでの各賞受賞者



↑ 西川さんの朗読

福島県青少年総合相談センターより

相談員の独り言

福島県青少年総合相談センターが昨年10月31日に開設されて1年、様々な被害を受け解決の糸口を見いだせないで苦しんでいる大人たちの隙間で、子ども・若者たちもまた悩み、彷徨っているようです。相談を通して見えてきたもののなかで、最初に挙げられるのは「不登校→ひきこもり」の現象です。何のきっかけもなく急に「ひきこもる」ことはまずありません。

いじめを含む人的関係、学業・運動の挫折感、非行犯罪の誘惑、心身の病気、障がいや周辺環境などが複雑に絡んでいきます。

その次の難問は、学校や職場への復帰です。心身に不安が残る状態での就学、就業には、人的関係問題の克服やコミュニケーション能力等のトレーニングが必ず必要です。援助の手が差し伸べられないま

相談員 根本文弘

ま中高年になり、親の年金を頼りに長期化隠遁化していく事例も多々あります。

お医者さんが言いますように、早期発見・早期対応が何よりも大切であることを痛感させられます。相談センターにはご両親や祖父母が相談にきます。それだけでは解決は困難なので、本人が訪れてくれるよう働きかけています。

また、多くの関係機関が相互に連携しあって解決の手がかりを探っています。WHO（世界保健機関）は最近、世界のうつ病罹患率が世界人口（70億）の5%の3億5千万人と発表しました。また内閣府は日本の「ひきこもり」の人数を70万人以上としています。

文明は進歩とともに新たな問題を産み落としますが、未来を託す青少年には大人たちが救いの手を差し伸べなければなりません。

平成24年度 第3回「大人が変わるセミナー」の案内

期 日：平成25年1月19日（土）13:00～15:00

会 場：福島県青少年会館 第1研修室

テ ー マ：「子ども・若者の自立と家庭・社会」パネルディスカッション

パネリスト：福島大学講師 富良謝 純氏、福島大学講師 鄭 玄実氏

県民会議 伊藤末吉氏（コーディネーター）

